

自然との共生について

【調査の目的】

県では、人と自然が共生する社会（※1）づくりを進めています。そこで、行政だけではなく、県民の皆さんや、企業、NPO・ボランティア等の多様な主体によって**生物多様性（※2）**の保全と持続可能な利用に関する施策を推進するため、平成25年3月に「福岡県生物多様性戦略」と「行動計画」、平成30年3月に「福岡県生物多様性戦略第2期行動計画」を策定しました。

つきましては、県民の皆さんに、県の生物多様性保全の取組がどこまで浸透しているか、また、生物多様性保全についての考え方をお聴きし、戦略推進の参考資料とさせていただきます。

※1 人と自然が共生する社会（自然共生社会）とは

人と自然（生きもの）が共に生き、自然からの恵みを持続的に受け続けることができる社会

※2 生物多様性とは

私たちの住む世界には、森林、草原、川、海など多様な自然があり、その中で、哺乳類、鳥、昆虫、魚など多種多様な生きものが、「食べる－食べられる」の関係をはじめ、様々な「つながり」を持って生きている状態

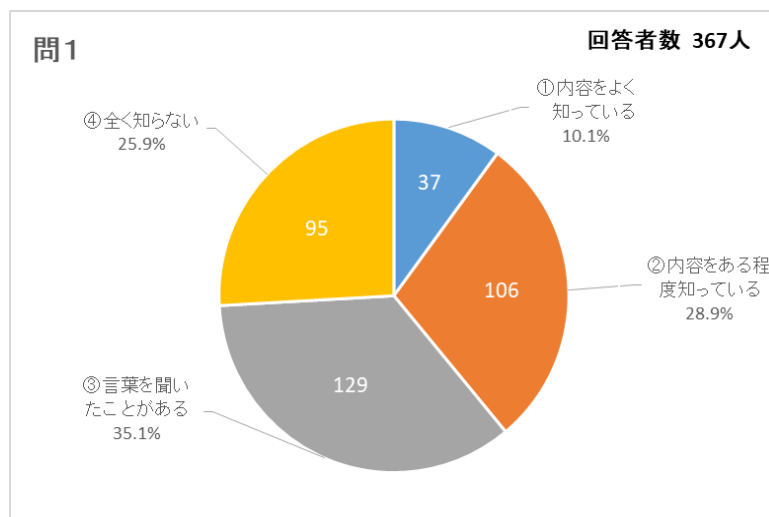
(環境部自然環境課)

問1 あなたは、「生物多様性」という言葉を知っていますか。

次の中から【1つだけ】選んでください。

(回答者数=367人)

選択肢	回答数	割合
①内容をよく知っている	37	10.1%
②内容をある程度知っている	106	28.9%
③言葉を聞いたことがある	129	35.1%
④全く知らない	95	25.9%



<参考>

県政モニターアンケートによる生物多様性認知度の推移

(H23は生物多様性戦略策定時の数値)

	合計	①	②
平成23年	33.0%	7.5%	25.5%
平成26年	39.3%	6.2%	33.1%
平成27年	43.4%	11.5%	31.9%
平成28年	39.5%	11.8%	27.7%
平成29年	38.1%	11.2%	26.9%
平成30年	32.0%	9.9%	22.1%
令和元年	37.5%	9.7%	27.8%
令和2年	39.0%	10.1%	28.9%

参考：年代別回答内訳

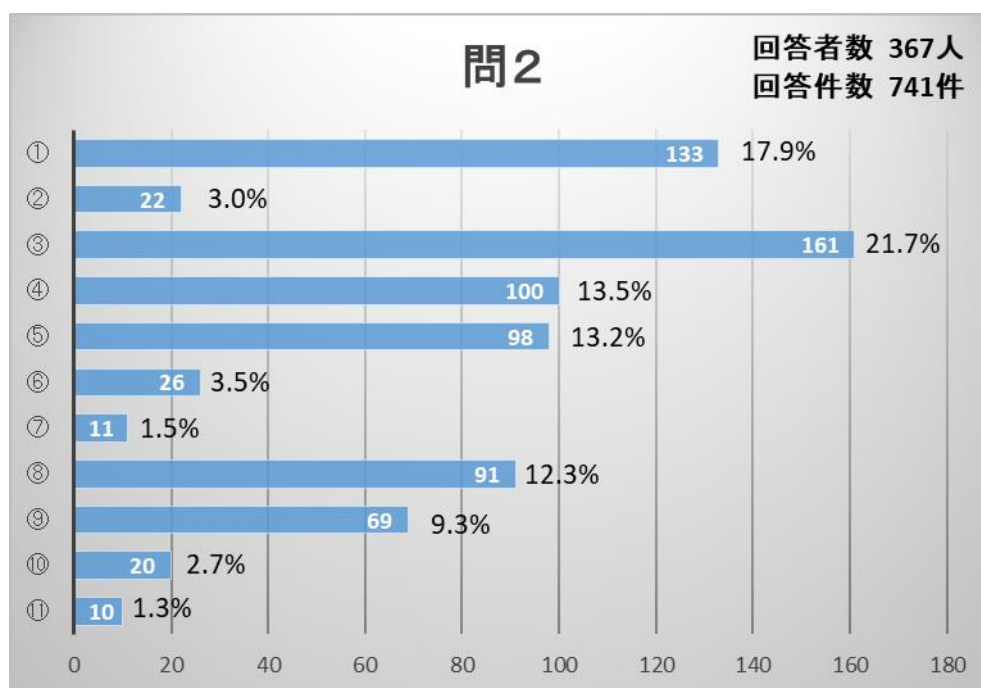
設問	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上	合計
①内容をよく知っている	8	10	6	5	4	4	37
②内容をある程度知っている	11	23	19	20	24	9	106
③言葉を聞いたことがある	13	26	34	27	13	16	129
④全く知らない	12	20	26	20	11	6	95
合計	44	79	85	72	52	35	367

問2 生物多様性を守るために、あなたはどのようなことを行っていますか。

次の中から【2つまで】選んでください。

(回答者数=367人、2つまで選択可、回答件数=741件)

選択肢	回答数	割合
①自分のまちを散策して、身近な自然を感じる	133	17.9%
②身近な生きものの名前を調べる	22	3.0%
③地のもの・旬のものを食べる	161	21.7%
④野生の生きものにエサをやらない	100	13.5%
⑤環境にやさしい商品を選ぶ	98	13.2%
⑥アサガオ等で緑のカーテンを作る	26	3.5%
⑦生きもの観察会や環境保全活動に参加する	11	1.5%
⑧ペットを最後まで飼育する	91	12.3%
⑨花や実のなる木を植える	69	9.3%
⑩自然についてできることを話し合う	20	2.7%
⑪その他	10	1.3%



※⑪ その他（抜粋）

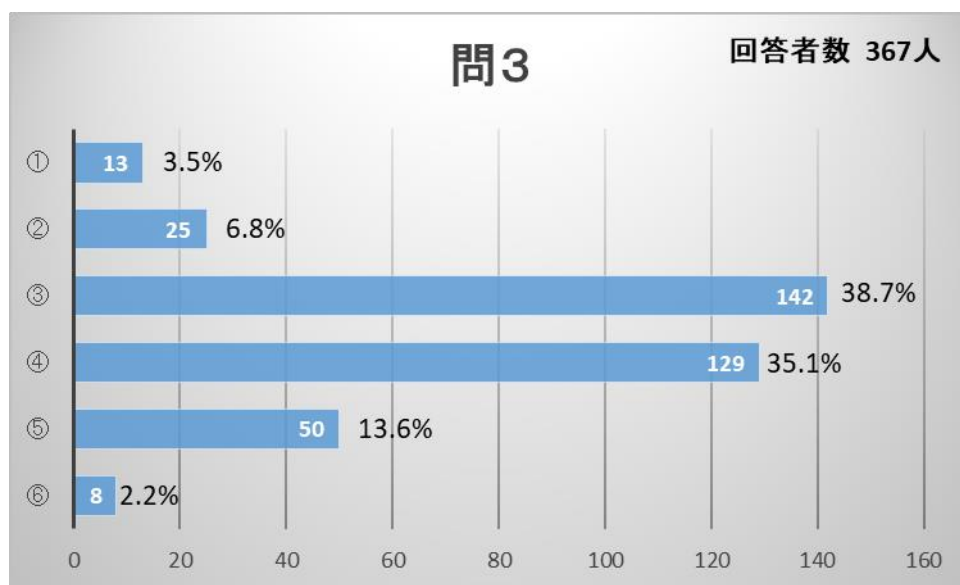
- ・「食べるー食べられる」の関係性を小さい頃から常に頭において食事をしている。
- ・「もったいない」について考え、なるべく食品ロスを出さないようにしている。
- ・虫捕りの際、基本的に帰る前にリリースをしている。持ち帰る時は、何を食べるのかを調べて世話できるものだけを持ち帰るようにしている。
- ・意識して行動していない。

問3 自然共生社会の実現のためには、行政だけではなく、県民、NPO、企業等の多様な主体による取組が必要になってきます。

あなたは、これまでに自然環境や生物多様性の保全活動に参加したことがありますか。
次の中から【1つだけ】選んでください。

(回答者数=367人)

選択肢	回答数	割合
①NPOなどの自然環境保全団体に属しており、定期的に活動を行っている	13	3.5%
②団体には所属していないが、NPOなどの自然環境保全団体の活動に時々参加している、又は参加したことがある	25	6.8%
③保全活動に参加したことはないが、身の回りにある自然に興味を持ち、親しんでいる	142	38.7%
④保全活動への参加や身の回りにある自然とのふれあいに興味を持っているが、参加の方法が分からない、又はきっかけがない	129	35.1%
⑤興味がないので参加したいとは思わない	50	13.6%
⑥その他	8	2.2%



参考：年代別回答内訳

設問	20代以下	30代	40代	50代	60代	70代以上	合計
①	5	1	3	2	1	1	13
②	1	6	3	5	5	5	25
③	15	34	28	24	27	14	142
④	16	22	40	27	13	11	129
⑤	7	16	11	10	4	2	50
⑥	0	0	0	4	2	2	8
合計	44	79	85	72	52	35	367

※⑥ その他（抜粋）

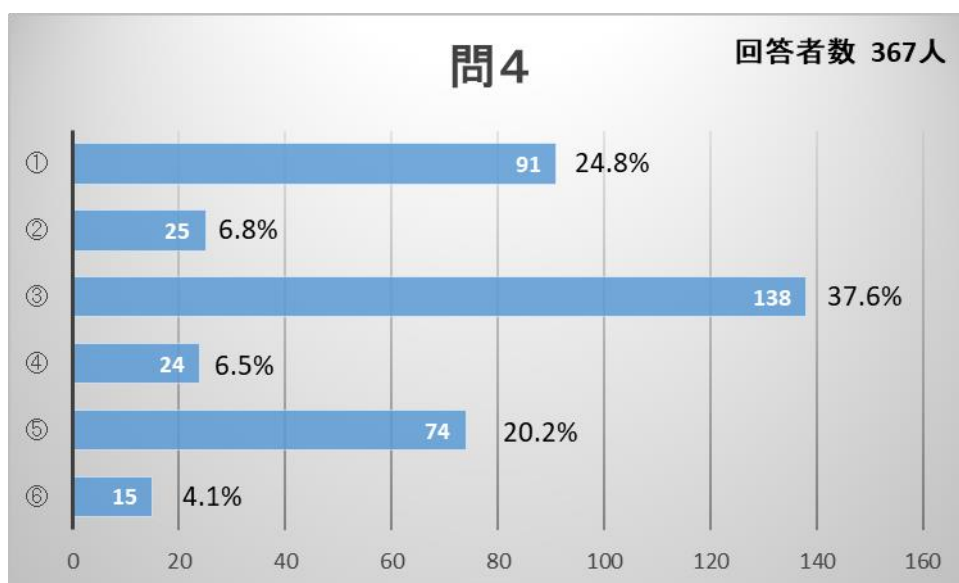
- ・地域での河川、ため池等の清掃、草刈りをしている。
- ・環境省から自然公園指導員の委嘱を受けて、国立公園、国定公園の保護と適正な利用のために動植物保護や美化清掃、情報提供などを行う活動を行っている。
- ・生物多様性について、どこかが何を取り組んでいるかということを知らない。
- ・意識したことがない。

問4 今後、生物多様性の保全等について、地域での自主的な取組を推進するために、県はどのようなことを支援したほうが良いと思いますか。

次の中から【1つだけ】選んでください。

(回答者数=367人)

選択肢	回答数	割合
①地域の活動に対して資金等を助成する	91	24.8%
②市町村やNPO等に対して取組への助言や生物多様性に関する研修会を実施する	25	6.8%
③誰でも取り組めるような生物多様性保全活動のためのリーフレットを作成し、周知・配布する	138	37.6%
④自然観察会等に、生物多様性に精通した人材を派遣する	24	6.5%
⑤一般の人を対象とした生物多様性に精通した人材を育成するための研修会を開催する	74	20.2%
⑥その他	15	4.1%



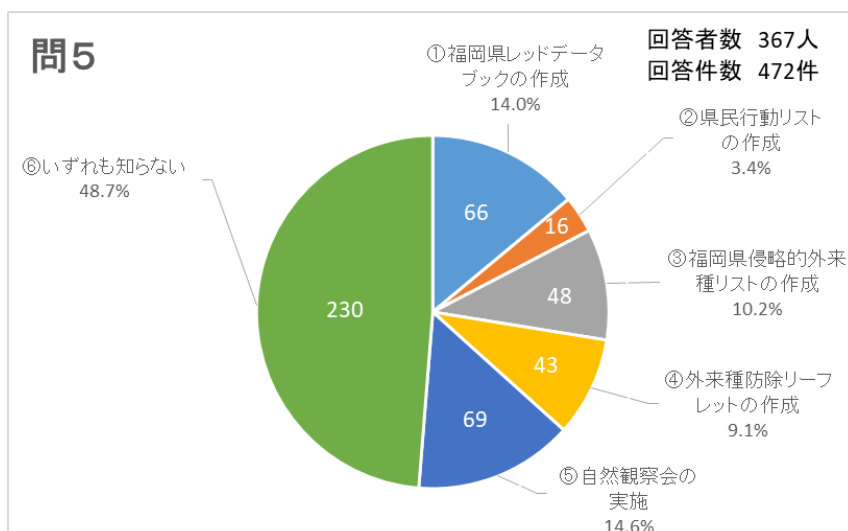
※⑥ その他（抜粋）

- ・環境保護に積極的な事業者に補助金を出す。必要な場合は、環境負荷の高い活動に規制をかける。
- ・既にあるNPOが企業などと連携し広く社会の中核層を巻き込む広報活動・イベントを行えるよう助成やサポートを行う。
- ・機会を増やす。自由参加のイベントを定期的にテーマを決めて開催する。
- ・小中学校の教育の一環で実施すれば家族を巻き込んで広がると思う。
- ・幼稚園や保育園、小学校等公的な機関、公営の公園や施設で生物多様性に精通している人材を招いてワークショップを開く。
- ・幼児や教育訓練の一環として、子どもの頃から身につけることが大切だと思う。
- ・若い人や子供のような自然に触れる機会がない人たちに生物多様性保全の重要性を伝えていく必要があると思う。
- ・興味のある人しかやらないと思うので、無理にお金を使って浸透させるより、興味のある人や仕事として保全活動を行えるような会社に支援をするべきである。
- ・支援してまでする内容なのか疑問である。田舎に住んでいたら特に必要性を感じない。

問5 県が実施している生物多様性保全のための取組について、知っているものを【全て】選んでください。

(回答者数=367人、複数選択可、回答件数=472件)

選択肢	回答数	割合
①福岡県レッドデータブックの作成	66	14.0%
②県民行動リストの作成	16	3.4%
③福岡県侵略的外来種リストの作成	48	10.2%
④外来種防除リーフレットの作成	43	9.1%
⑤自然観察会の実施	69	14.6%
⑥いずれも知らない	230	48.7%



問6 自然との共生について、これまでの設問以外に意見がありますか（抜粋）。

- ・何より経費がかかると思うので、NPO法人の活動のみでなく行政も積極的に資金援助を含めバックアップしてほしい。
- ・海や河川に関して、そこに住む生物たちの情報をより多く知りたい。
- ・地産地消の取り組みもその一環としてよいと思う。手間はかかるだろうが、学校給食には是非地元の農家さんのものを利用してほしい。
- ・あまり詳しくない人も、楽しみながら参加できるようなワークショップなどのイベントがあったら良い。
- ・これからの未来を創っていく今の子ども世代が生きものに興味を持ち、大切に想える、そして、またその下の世代へ生きものについて言い伝えていけるよう、その親が子どもと一緒に生きものを日常的なものとして生活に取り込んでいくのが望ましいと思う。
- ・福岡県は自然と街とのバランスがよく、日本の中で自然との共生都市として先進的な役割を果たすポテンシャルがあると思う。
- ・子供達や若い世代への周知教育が必要ではないか。
- ・地域環境、保全という面からも、自然との共生は非常に大切なこと。特に生物多様性の保全には人が関わるのが大きい。県からのPR発信を望む。
- ・子供が、昆虫が大好きで近所をよく散策しています。積極的に環境保全活動などに参加したいとは思っていますが、いつどこでどのような活動が計画されているかが分かりづらく、知りえない状態です。大々的に広報してください。
- ・昔は自然と人の居住地の間に里山があり、環境保全が可能になっていたが、今はそこが開発され里山が無くなってしまった。今後は人工的に里山を創っていかないと環境は悪化する一方であると思う。
- ・自然が減っていく中、今後は人間の利便性追求より精神面の豊かさが求められていると思う。特別なものとしてではなく身近なものとして認識できるような県民の意識改革も必要。
- ・生物多様性や自然との共生といっても難しい気がするので、言葉の意味を分かりやすくPRする必要があると思う。また、そのために誰もができる取組について紹介したほうが良いと思う。（言葉だけ聞くと専門的な感じがして私たちの生活とは関係ないことのように思えてしまう。）
- ・もっと身近な話題から入るべきだと思う。「生物多様性」と言われるとどうしても堅苦しく感じる。普段見かける何でもない光景に少しだけ、新たな視点を持てるような親しみやすいシンプルで簡易な試みが必要だと感じる。
- ・生物多様性保全という取り組みをしていることを知らなかった。自然や環境に関心を持っている人しか環境について深く考えていないと感じる。天神や博多は特に緑が減り、自然との共生を感じにくい。